

# 記事テンプレート

村上友哉

2021 年 5 月 28 日

## 目次

1	独自定義のコマンド	1
2	独自定義の環境	1
2.1	定理環境 . . . . .	1
2.2	相互参照 . . . . .	2
2.3	プログラムのソースコードを表示 . . . . .	2
3	図	2
4	文献引用	2

## 1 独自定義のコマンド

$\mathbb{N}, p, A, \text{Hom}(A, B), |x|$  などのコマンドを楽に入力できる. 定義したコマンド一覧は `mycommand.sty` で見られる.

## 2 独自定義の環境

### 2.1 定理環境

通常 of 定理環境は `thm` 環境を使って

**定理 2.1** (見出し). 定理の内容

として「定理 2.1」のように引用する. 番号にはハイパーリンクが付く. 定理番号の形式を変更したいときはプリアンプルから設定する.

**演習問題 1.** 演習問題だけは番号付けがデフォルトで定理番号とは別の通し番号になっている. 変更したいときはプリアンプルから設定する.

## 2.2 相互参照

相互参照は `cleveref` パッケージが便利である.

定理 2.2. hogehoge

定理 2.3. hogehoge

補題 2.4. hogehoge

$$abc$$
$$abc \tag{2.1}$$

定理 2.1 より...

定理 2.1–2.3, 補題 2.4, 式 (2.1), 2 節, 2.1 項–2.3 項から...

`equation*`などの\*付き数式環境は使えないので注意.

## 2.3 プログラムのソースコードを表示

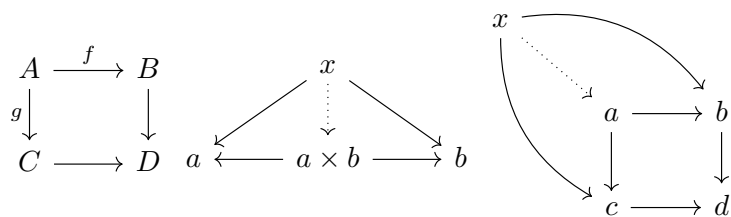
Copy **and** paste source code of Python **or** Sage.

Copy **and** paste result.

のように使う.

## 3 図

可換図式は `TikZ-cd` を使って



のように書く (参考にした URL) .

## 4 文献引用

文献の内容を `bibtex` 形式で MathSciNet などからコピペした `bib` ファイルを準備して, [AM06, 定理 1.1] などとして文献を引用する. この際, `cite` コマンドの前に空白を空ける場合は半角スペースではなくチルダを使うことで行頭への出力を禁止する (2021/05/17 のバージョンでは `mypackage.sty` 内で `cite` パッケージを読み込むことでチルダを使わずとも行頭への出力を禁止していたが, 使っているうちにこのパッケージは不具合が多いことに気付いたので使用を諦めた). 本稿で用いている

biblatex よりも拡張性が高い biblatex パッケージというものもあるが, 相互参照のための cleveref パッケージで数式を参照するために利用している autonum パッケージで読み込まれる etextools パッケージと互換性が無いため導入を断念した.

## 謝辞

mycommand.sty で定義しているコマンドの一部は松坂俊輝さんに教えて頂いたものを使っています. また, このテンプレートはインターネット上に公開されている膨大な知見をもとに作成されています. ここに感謝いたします.

## 参考文献

[AM06] Michael F. Atiyah and Ian G. MacDonald. 可換代数入門. 共立出版, 2006. 新妻弘 (翻訳).